

探究のポイント

第6回

このコーナーでは、新学習指導要領のキーワードの一つである「探究」について、「総合的な探究の時間」や各教科の授業で実践していく上でのポイントを、高校での取り組み事例などから見ていく。

今回は、2017年度から高大官民による探究学習プログラムを推進している岩手県立福岡高校取材した。

岩手県立 福岡高等学校の 「探究のポイント」

- ◇ 高大官民連携により地域課題の解決策を探究
- ◇ 外部講師の講演や研修旅行を通じて「二戸市活性化プラン」をまとめる
- ◇ 5つのコースで地方創生の方法を探究する「コース別講座」
- ◇ 個別探究の取り組みを基に「総合型選抜・学校推薦型選抜候補リスト」を作成
- ◇ 『地方創生カシオペア講座』を通じて志望理由が明確になる生徒が増加

将来の「地方創生」を担う人材を地域全体で育てる 高大官民連携事業『地方創生カシオペア講座』

岩手県立福岡高等学校

岩手県立福岡高等学校は、学校経営計画の「めざす学校像」において、「これからの地域と世界で活躍するための知力と実践力を備えた生徒の育成」を掲げている。その目標を実現するために、2017年度より実施しているのが、高大官民連携による探究学習『地方創生カシオペア講座』である。2019年度の具体的な取り組み内容について、進路指導主事の鳩岡史朗先生にうかがった。

地域の課題解決に向けて 高大官民が協働して取り組む 『地方創生カシオペア講座』

岩手県立福岡高等学校（以下、福岡高校）は2017年度から、「総合的な探究（学習）の時間」の中で、福岡高校・岩手県立大学・二戸市・株式会社JTB盛岡支店による探究学習『地方創生カシオペア講座』を実施している。

名称に付された「カシオペア」とは、福岡高校がある岩手県二戸市と周辺町村を点と線でつなぐと「カシオペア座」のW形になることから、この地域が以前から「カシオペア連邦」の愛称で親しまれてきたことに由来する。『地方創生カシオペア講座』の取り組みの背景には、地域が抱える人口減少という課題があった。2016年度には二



進路指導主事
鳩岡史朗 先生



3学年担当
石坂みづえ 先生



2学年担当
菅原実紗 先生

戸市と連携し、1学年の「総合的な学習の時間」の中で、市の職員などによる出前授業を実施した。市は若者のUターンやIターンを促すこと、福岡高校は生徒が地域を知るきっかけとすることを目的に実施したもので、これが現在の高大官民連携事業に発展するきっかけとなった。進路指導主事の鳩岡史朗先生が経緯を説明する。

「これまでの本校の卒業生は、地元のことをあまり知らないまま他地域の大学に進学し、大学卒業後もそのまま他地域で就職してしまうことが少なくありませんでした。しかし、ふるさとに戻ってきて地域に貢献できる仕事はたくさんあるし、世界を相手に活躍している地元企業も少なくありません。そこで、まず地域のことを知ろう、学ぼうという観点から、取り組みを始めました。

最初は二戸市との連携事業でしたが、生徒たちが地域

のさまざまな大人たちと接し、地域について多面的に学ぶことが重要ではないかという意見が実施した教務主任や学年主任から挙がりました。そこで、進路指導課が中心となって、大学や民間企業にも連携を呼びかけ、3年間の探究プログラムを検討しました。各団体とのぎっくばらんな意見交換を重ね、メインテーマは『地方創生』とすることとしました。岩手県立大学公共政策研究所には地方創生に関する調査・研究の進め方についてアドバイスをいただきました。さらに、岩手県内のSSHやSGH指定校の海外研修プログラムのコーディネーターなども手がけているJTB盛岡支店にも協力いただくこととなりました」

こうした検討を経て、2017年度には「高大官民が連携して、生徒自身が自分の暮らす地域を知り、抱えている課題を発見し、グローバルな視点からその解決策を立案する実践を通して、地方創生の一翼を担う『グローバル人材』の育成を図ること」を目的とした『地方創生カシオペア講座』を開設した。

2019年度『地方創生カシオペア講座』の、各学年の実施内容について紹介する。なお、福岡高校は2学期制である。

1 学年

外部講師の講演や研修旅行を通じて「二戸市活性化プラン」をまとめる

達成目標：基本的な生活習慣と家庭学習習慣を確立するとともに、実社会・実生活から課題を見だし情報を集め、進路目標について考えさせる。

1学年前期は、「学びみらいPASS」^(注)などのアセスメントを受験し「自分を知る」活動や、小論文のテキストを使った「自分の考えをまとめる」活動、教育相談ガイダンスなど「他者との関わりを学ぶ」活動に取り組む。夏休みの前後には、『大学・学問研究』ガイダンスを受講したりオープンキャンパスに参加したりした上で、見聞きした内容をクラス内で発表したり、8月末の福陵祭(文化祭)でポスター発表したりする。これらの活動を通じて、その後の探究に必要なスキルを身につけていく。

後期には、全体講座(講義)を計9回実施。第6回まではグループごとに「二戸市活性化プラン」をまとめることを目標にした講座であり、第1回全体講座はガイダンスである。第2回は、岩手県立大学公共政策研究所の齋藤俊明教授による「人口減少社会の到来と持続可能な地域社会」をテーマにしたオリジナルのテキストを用いた講義と、齋藤教授と二戸市長の対談を聴講し、二戸市の人口減少の推移と要因などについて学ぶ。第3回は二戸市政策推進課の担当者による市役所の取り組み、第4回は地元の会社経営者と旅館の女将によるローカル企業の取り組み、第5回はJTB盛岡支店の職員による、地元を拠点とするグローバル企業の取り組みに関する講義である。

「担当講師が学校のホールで講義や対談を行い、それを聴講するという形式ですが、一方的に話を聞くのではなく、生徒からの質問や意見を述べる場を設け、できるだけ双方向のコミュニケーションになるようにしています。また、講義後には内容についてグループワークを行い、個人レポートを作成することで、二戸市が直面する課題や、活性化のための方策などについて理解を深められるよう、工夫しました」

その後、第2～5回に作成した個人レポートに基づき、グループごとに「二戸市活性化プラン」をまとめ、第6回全体講座ではクラス内で発表会を実施する。

第7・8回全体講座は、2月中旬に実施される研修旅行(台湾または関西)の事前学習も兼ねている。全体講座では、JTB盛岡支店の担当者が研修先の地方創生の取り組みなどについて講義し、研修旅行中には生徒がフィールドワークを実施する。それらを通じて、生徒は二戸市との共通点や相違点を発見し、地域活性化の方策について考えを深める(2019年度の台湾または関西への研修旅行は、新型コロナウイルスの影響で延期。2学年で関東への研修旅行となる予定)。

研修旅行後の第9回全体講座では、グループごとに作成したプランを、全体講座で学んだ内容や、研修旅行の経験を踏まえてブラッシュアップし、個人ごとに「二戸市活性化プラン」にまとめる。そして、3月には全体発表会を実施する予定だった(これらも新型コロナウイルスの影響で中止)。

(注) 学びみらいPASS…河合塾が提供する、「新しい学力」を多面的に測定するアセスメントテスト。(1)教科学力を測る「Kei-SAT」、(2)思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性等に該当する「ジェネリックスキル」を測る「PROG-H」、(3)学習生活パターンを測る「LEADS」、(4)適性・興味関心を測る「R-CAP for teens」の4つのアセスメントテストで構成される。



2 学年前期 コース別講座

観光、経済、文化・自然遺産、医療、理工 5つのコースで地方創生の方法を探究

達成目標：基礎学力の充実を徹底するとともに、集めた情報を整理してさまざまな視点で分析する。

2 学年前期には、全員参加の「コース別講座」が行われる。「観光」「地域経済」「にのへの宝」「地域医療」「理工学」の5つのコースに分かれ、二戸市を活性化させるために自分ができる方法を具体的に考えていくものであり、原則的に生徒が希望したコースに参加することができるようにしている。生徒は5～6人程度の班に分かれて、コースに関連した地方創生プランを検討し、8月末の福陵祭で展示発表する。各コースの内容は以下の通りである。

◆観光コース

JTB・二戸市商工観光流通課と連携し、台湾の高校生をターゲットにした二戸市観光プランを作成する。

「5つのコースのうち、最も多くの生徒が選択したコースです。夏休みに二戸市内の観光名所を実際に歩いてみて、“もしも自分が台湾の高校生を相手に二戸地域の観光案内をするとしたら”という切り口で、個々の生徒が独自の観光プランを組み立てるという内容です。昨年の発表会にはさまざまな旅行代理店の方をお招きして、コンペ形式で生徒たちが発表した観光プランに講評をいただきました」

◆地域経済コース(2020年度から「経済コース」と改名)

県北広域振興局と連携し、地域経済に貢献するプランを作成する。

「地域の実情を経済的な側面から学ぶことを目的としたコースです。地元の会社や地域から全国展開・世界展開している企業を訪問し、各企業の経営の工夫や商品開発のアイデア、企画の進め方などについて講義していただきました。2020年度は、大学で学んだあとに二戸市で起業した23歳の本校卒業生が取りまとめ役となり実施しています」

◆にのへの宝コース(2020年度から観光コースと合併)

二戸市政策推進課・教育委員会と連携し、九戸城・ヒメボタル等「にのへの宝」を生かして地方創生を推進するプランを作成する。

「東北地方最古の石垣が残る国史跡・九戸城跡巡りと、7月上～下旬に折爪岳^{おりつめだけ}で発生するヒメボタルを観察するナイトツアーは、二戸市を代表する二大観光資源です。このコースでは、フィールドワークを取り入れながら、これらの『にのへの宝』を地方創生につなげる方法を探究します。九戸城では、地元のボランティアガイドの方に九戸城の歴史や、城跡ガイドのノウハウを指南していただきます。また、ヒメボタルは生態調査を継続的に行い、生息地の環境保全活動にもつなげていきたいと考えています」

◆地域医療コース(2020年度から看護コースと改名)

岩手県立二戸高等看護学院(専門学校)・二戸市健康福祉企画課等と連携し、地域医療に貢献するプランを作成する。

「二戸高等看護学院の教員に看護学の概論を講義していただくほか、医療・介護の現場を訪ねる『ふれあい看護体験』に参加します。医療の課題について学び、地域医療に貢献する意識を醸成します」

◆理工学コース

岩手大学理工学部と連携したコースで、理工学の世界を学び、ものづくりを活性化させる意欲を高める。

「2019年度は、8つの研究室の先生方に來校いただき、連続講義をしていただきました。夏休みには岩手大学の『アカデミック・インターンシップ』とオープンキャンパスにも参加します。近年、本校から岩手大学理工学部をめざす生徒が増えていることから、設置をお願いしたコースです。2020年度は研究の進め方等、具体的な探究指導をお願いしています」

2 学年後期 個別探究(希望者)

新規導入の「個別探究」で 自分の進路に直結した課題を探究する

達成目標：実社会・実生活から見いだした課題を個別に探究し、将来学ぶべき学問や就きたい職業への意義づけを図る。

2 学年後期は、希望者が「個別探究」に取り組む。個別探究は、コース別講座での学びをより深め、総合型選抜・学校推薦型選抜などを利用して生徒の希望する進路につなげるため、2019年度からスタートした取り組みである。

「前期のコース別講座で学んだことについて各自が問いを立て、情報を収集し、整理・分析します。足りない知識があれば、文献やインターネットで調査したり、コース別講座などでお世話になった企業等の方に質問したりするなどして、その上で新たな問いを立て、さらなる整理・分析を行います。この探究のサイクルを2回、3回と重ねることで、各コースの視点から二戸市を活性化させるために自分ができる方法は何か、その方法を実現するためには大学でどのようなことを学ぶことが必要なのかと考え、その結果として大学の志望動機が明確になるのではないかと考えました。自らの“気づき”が重要なので、教員はコーディネーター役に徹しています」

「個別探究」(全5回)の後には、市販の小論文テキストを使った「論文講座」(全4回)を受講。それらを踏まえて、生徒は個別探究の成果を個人でレポートにまとめ、1月末の「個別探究発表会」で発表する。

教員は、「個別探究発表会」(2019年度は新型コロナウイルスの影響で中止)での発表内容や普段の取り組み状況等を参考に「総合型選抜・学校推薦型選抜候補者リスト」を作成するなど、大学受験指導にもつなげている。

「2学年後期の『地方創生カシオペア講座』は希望者のみの取り組みですが、2019年度は学年の半数にあたる80名が受講しました。2020年度からは全員参加とする予定で、論文の書き方を大学の先生方に指導していただいたり、『個別探究』の実施日に外部の方を招き、探究内容についてアドバイスしていただいたりするなど、さらに指導を充実させられるよう計画中です」

3学年も希望者のみが受講し、「コース別講座」や「個別探究」の活動内容を基に、志望理由書をまとめる。

3年間の探究の積み重ねが 生徒の主体的な進路選びを促す

2020年3月には『地方創生カシオペア講座』を1学年から受講した生徒が卒業した。取り組みの手ごたえについて聞くと、鳩岡先生はAO入試に意欲的に出願する生徒、AO入試を積極的に勧める教職員が増えたことを挙げる。

これまでの生徒・教職員はAO入試に対してあまり意欲的・積極的ではなかった。しかし、2019年度卒業生・学年団は『地方創生カシオペア講座』の学びを生かして出願しようとする動きが活発だった。その理由について鳩岡先生は、『地方創生カシオペア講座』を通じて、大学

での研究や、地域に貢献するイメージをより具体的に持つことができる生徒・教職員が増えたからではないかと分析している。具体的には、『地方創生カシオペア講座』で地元の漆産業から建築材料に興味を持ち、山形大学工学部建築・デザイン学科にAO入試で合格した生徒もいるという。また、生徒が作成する志望理由書や小論文も、「ストーリー」が明確になってきているという印象を持っている。

『地方創生カシオペア講座』には、二戸市、岩手県立大学、JTBのほかにも、さまざまな地元企業や専門学校などのお世話になっています。協力のお礼を言うと、『お礼なんて水くさい。協力者ではなく、ともに生徒を育てている仲間だと思ってください』と言っていただくことがよくあります。本校の生徒たちのことを、将来、二戸市を支える“地域の宝”と見なして下さっているからでしょう。高大官民の信頼関係をますます固めながら、今後も地域活性化に貢献できる人材育成をめざして、本校ならではの“探究”を追究していきたいですね」

2020年度からは、2学年後期の「個別探究」を全員必修にする。新型コロナウイルス感染症の拡大防止などの理由から、外部と連携した活動内容を変更した部分もあるが、「探究」をより充実させていく方向だ。

岩手県立福岡高等学校

◇所在地：岩手県二戸市福岡字上平10

◇沿革：1901(明治34)年 岩手県立福岡中学校開校
1948(昭和23)年 新学制により岩手県立福岡高等学校として開校

◇学級編成：[全日制・定時制] 3学年普通科5クラス、
1・2学年普通科4クラス(定時制：各学年1クラス)

◇生徒数：420名(2020年4月現在)

◇特色：2021年度に創立120周年を迎える県内有数の伝統校。校是「文武両道・質実剛健」と、教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間の育成」掲げる。高大官民連携による人材育成事業『地方創生カシオペア講座』を柱に、学校教育と地域との連携・協働を通して、これからの地域社会と世界で活躍する知力・実践力を備えた人材の育成をめざしている。

◇卒業生の進路：2020年3月卒業生179名
・進路：4年制大学98名、短期大学18名、専門学校47名、就職8名、その他8名
・合格者の内訳(現役生、延数)：国公立大44名、私立大123名、短期大学20名、専門学校・各種学校28名